

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：情報科学

部会長名：森下淳也

作成者名：森下淳也、熊本悦子

概要（2000 字）

- ・ 今年度の当初における基盤センターシステムのネットワーク遅延による授業への影響
学術情報基盤センターのシステム更新によって引き起こされた大幅なネットワーク遅延により、4月当初の授業「情報基礎」に大きな影響が出た。この混乱に拍車をかけたのが各学部の「履修登録」による計算機利用者の倍増であった。学期始めの2週間の間、満足に授業の出来ないクラスが続出したため、各担当者と協議して、講義内容の見直しと優先順位の高いものを残して単元を圧縮することでこれに対応する事となった。大変残念なことである。基盤センターの迅速な対応のおかげでこの混乱は長期化する事なく収まったが、次年度も「情報基礎」と「履修登録」が重なる時期には同様の混乱が起こる可能性があるため、教務と基盤センターが協議してこの時期に対応することとなった。これについては全学共通教育運営協議会にて既に報告してある。
- ・ 教養原論担当者の確保について
現在の部会が発足した当初、4コマの教養原論を部会が担当するという佐々木理事(当時)の指示に対し森脇工学部長(当時)が工学部より担当者を出すという事で部会が始まった。しかしながら、薄井工学部長(当時、現理事)の尽力にも関わらず、2コマを非常勤にて補填せざるを得ない状況が今年度まで続いている。これを打開するため、今年1月、薄井理事に仲介していただき、森本工学部長に再度、平成 22 年度からの担当者の提供を願った。大月国際文化学部評議員の同席のもとで、工学部研究科長室にて森本工学部長より2コマの担当者の提供を確約していただいた。次年度前半までに具体的な話をうかがう予定である。
- ・ D618 演習室の移転問題
耐震補強工事に伴う、教室移転によって次年度後半より K 棟5階に D618 を移転することが決まった。移転による利点は、事務補佐員1名で両方の演習室を管理できることである。しかしながら K503 と D618 がそれぞれ 170 台構成なのは、情報基礎の授業構成に合っており、各部署の定員クラス編制、歩留り及び機械の故障時の予備台数から決められた数であったが、移転後は K503、190 台、K501,2(D618 移転先)、150 台となりこのバランスが崩れる事になった。教務としてはこれまでに問題がなかったためとしているが、今後の授業のクラス編制、教室割当に影響が出るかもしれない。特に K503 に 190 台は不要であり、この規模の授業を企画することも出来ないため、20 台の有効利用を色々と検討したが、果たせなかった。
- ・ K503、D618 演習室へのマウスパッドの設置
コンピュータを操作する際のマウスの動作について、多くの不具合の報告を受けているため、机に貼付ける型のマウスパッドを今年度の予算で購入、K503 については次年度当初より、D618 については移転後、全てのコンピュータに設置する予定である。現在の光学式マウスは OA デスクに対応しているはずであるが、油分などによる汚れで認識が難しくなるようである。教室の清掃なども検討したい。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎:全学学部新入生を対象とし、情報機器の操作にとどまらず、セキュリティや情報倫理までを網羅した必修の情報リテラシー教育である。再履修クラス 1 クラスを含み全 24 クラス、開講期間は半期の半分(6 単元)であり、教育用端末を用いて行う。授業は、オリジナルの Web テキストと独自に開発した簡易 e-Learning システムを用いて、全クラス同じ内容で行われる。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/>)

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

19 年度までの反省点を踏まえ、講義内容の見直しを行い、Web テキストの内容を修正した。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/>)

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

Web テキストを準備することにより、学生が学内外からアクセスし、自学自習を可能とした。また、クラス担当スタッフへのメーリングリストを作成し、電子メールによる質問を可能とした。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/>)

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）

各クラスの履修者数に応じて、教員 2 名または 3 名およびティーチングアシスタント 2 名または 3 名で授業を担当、1 人 1 台のコンピュータを割り当てた。授業手順書を準備し、教員が異なってもすべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにした。

根拠資料

各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席表
情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/>)
授業手順書

5-2-③： 自主学习への配慮、基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

テキストは全てオンラインで閲覧できるホームページであり、随時、繰り返し閲覧できる。また、オンラインで授業の単元毎に、力試しテストを設け、随時、繰り返しテストを受ける事が出来る。その記録は各学生が自分の分を閲覧でき、担当教員は担当する全ての学生の状況を確認できるため、適切な指導を行なう事が出来る。

根拠資料

情報基礎 Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/>)

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価基準を全クラスで統一し、出席、課題の採点結果に基づいて公平に採点した。

根拠資料

課題の解答メール、オンライン小テストの履修者の解答。
成績集計システム (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2008/> 教員用ページ)

基準 6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

情報基礎独自のオンラインアンケートを行った結果、Web テキストは授業を理解する上で役に立ったという設問に対し、5 段階で平均 4.07 であり、高い評価を受けた。ビデオ教材が授業内容を理解する上で役に立ったという回答も、5 段階平均 4.08 と高く、教育の効果が上がっていると考えられる。また、e-Learning システムで個々の出席状況やテストの成績を確認できることが好評であった（5 段階で 4.45）。

根拠資料

オンラインによる授業評価アンケート結果（情報基礎オンラインアンケート）

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

クラス毎にメーリングリスト（基盤センターサービス）を設置して、学生から電子メールで担当教員とティーチングアシスタントに対して随時、質問が受け付けられるようになっている。

根拠資料

神戸大学統合ユーザ管理システム課金サービス一覧（部会長平成20年度）